

一井正典・生誕150周年

＝維新の若きサムライ＝

松本 晋一¹⁾，井手 祐二²⁾

¹⁾熊本県歯科医師会会員，²⁾日本歯科医史学会会員

1, 一井正典先生のこと

1891年(明治24)，米国本土・東海岸のフィラデルフィアで日本人として初めて歯科を開業した一人の熊本県人が居ました。その名は人吉市出身の一井正典(いちのい・まさつね)。それは1865年(慶応元年)，日本で初めて横浜で西洋歯科を開業した米国人歯科医，W.C. イーストレーク(William Clark Eastlake)の日本初来日から26年後のことでした。

ジュグリット先生こと、「一井正典(いちのいまさつね)」先生は江戸末期の文久2年(1862年)6月8日、九州・相良藩(人吉市)生まれ。明治維新後14歳で西南戦争に従軍、上京後明治18年に文明開化の東京から、牧師美山貫一の世界で渡米、サンフランシスコのドクターバンデンバーグに師事します。その縁により歯科医学を専攻、東海岸のフィラデルフィア・デンタルカレッジに進み大学を首席で卒業、日本人として初めて米国本土で歯科医院を開業します。さらには日本人初の教授並びにアメリカ歯科医師会会員となった人物です。

渡米10年後の明治27年に日本に帰国。東京神田に開業、同時に高山歯科医学院(現東京歯科大学)の講師、文部省開業試験委員等を歴任。東京都歯科医師会、日本歯科医師会の創設にも寄与し、さらには明治大正昭和の三天皇の侍医等を務めた人物です。一井は帰国後、当時の日本に各種の近代西洋歯科医学を紹介・普及しています。その学歴、見識等は米国の医療倫理及び医療管理、アシスタント制度の導入、当時の新しい医術＝ポーセレン術、金冠術、麻酔術の導入・普及などに現れています。

2, 一井生誕150周年記念行事

この一井正典先生は同じ九州熊本出身の歯科医師として、個人的にも誠に興味深い人物です。しかしながら、現在の日本の歯科界、医療界、医史学会、そして米国本土でも、この人物の存在はあまり知られておりません。

昨年春、一井正典先生の生誕150周年目を6月8日に迎えました。この節目に熊本県出身の郷土の偉人、日本歯科界の先駆者について地元人吉市でその人物像の紹介や顕彰事業が企画・実施されました。具体的には生誕150周年献花式、町中での人物像紹介や写真展、記念講演会、記念誌の発行などです。この時期は「歯の衛生週間」にもあたり、それにちなみ市内の菓子販売店の店内を利用して、これらの記念行事が開催されました。

また秋の9月の21日22日には、一井正典の卒業そして開業地でもある東海岸フィラデルフィアの現地、テンプル大学歯学部で生誕記念のセレモニー、展示会、講演会が開催され、同時に西海岸のサンノゼ州立大学でも一井生誕を祝う記念植樹祭が開催されたのです。さらに11月初旬には当人吉市の田中信孝市長によるカリフォルニア州・ロスガトス市(一井の米国での第2の故郷となる町)とサンノゼ市他への表敬訪問がなされ、今後、この一井正典の事跡をきっかけに、高校・大学生などの若者を中心とした友好的な日米交流の関係構築につながる事が期待されます。

そして10月には、人吉市の主催による「一井正典——日米をじゅぐりつと駆けた歯科医」人物展が人吉城歴史館で約2カ月間にわたり紹介展示され、その期間中には講師の宝井琴調氏による2回の新作講演会、学童や父兄向けの講演会などが開催されました。

3, これからのねらい

この一連の記念行事は、閉そく感の漂う昨今の日本の若者に向けて、夢を追いかけた日本人先達の日米の架け橋の好例として、この史実を日米の医療関係者や米国の日本人3世4世の方々への紹介、引いては今後の新たな日米交流構築の一素材とし、相互の親睦へとつながれば幸いです。

また、この熊本の地での人物遺産の存在と記念行事の開催を踏まえて、今後、郷土の偉人という人物資源をどのような形で活用・展開すべきかを含めて考えてみたいと思います。